



「乗り物よい」は、どうして起こるの

からだのつり合いをとっているところの、はたらきがくるうから

耳のおくには、体がかたむいたりしないよう、いつも、体のつり合いを保つための、はたらきをしているところがあります。

乗り物などでゆられると、そこのはたらきがくるってしまい、「乗り物よい」になるのです。

体のつり合いを保つ、前庭器官と半規管

体のつり合いは、耳のおくの、内耳というところにある、前庭器官と半規管によって保たれています。前庭器官は、3本ある半規管の輪の、根元のふくらんだ部分で、体のかたむきを知るところです。半規管は、おもに、体の動きの変化や、方向をとらえます。

「乗り物よい」は、乗り物などの、不規則なゆれや動きの変化で、これらの器官がゆれ続け、体のつり合い（平衡感覚）を失うために起こるのです。（監修・保志 宏）

